

第4問

次に挙げるのは、六朝時代の詩人謝靈運しゃれいうんの五言詩である。名門貴族の出身でありながら、都で志を果たせなかった彼は、疲れた心身を癒やすため故郷に帰り、自分が暮らす住居を建てた。これはその住居の様子を詠んだ詩である。これを読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。(配点 50)

樵(注1)隱(ア)俱ル在モ山ニ 由(注2)来事不同

不同非一事 養(注3)痾フモ亦やまひ園タ中(注4)

園中屏しりぞけ氛(注5)雜ふん 清(注6)曠くわう招ク遠風ニ

ト(注7)室ぼく倚より北ノ阜をか 啓ひら扉キテ面ス南ノ江かは

激せき澗メテ代たにがは汲く井ム 挿う槿エテ当むくげ列ツ墉つらな

群木既羅戸つらなり 衆山亦対ス **C**

靡(注8)迤い趨おもむ下田ニ 迢(注9)遞てう瞰ミル高峰ニ

寡(イ)欲ヲ不期セ勞ヲ 即シテ事ニ罕(注10)人功ノ

唯^タ開^キ二^(注11)蔣^{しやう}生^{せいノ}徑^{みちヲ}一
永^ク懷^{おもフ}二^(注12)求^{きう}羊^{やうノ}蹤^{あとヲ}一

E
賞^(注13)心^{カラ}不^ル可^ル忘^ル
妙^(注14)善^{こひねが}冀^{ハクハ}能^{よく}同^{ともニセン}

(注) 1 樵隱——木こりと隱者。

2 由来——理由。

3 養^レ痾——都の生活で疲れた心身を癒やす。

4 園中——庭園のある住居。

5 氛^レ雜——俗世のわずらわしさ。

6 清曠——清らかで広々とした空間。

7 ト^レ室——土地の吉凶を占つて住居を建てる場所を決めること。

8 靡^レ迤——うねうねと連なり続くさま。

9 迢^レ遞——はるか遠いさま。

10 罕^ニ人^功——人の手をかけ過ぎない。

11 蔣^レ生——漢の蔣詡のこと。自宅の庭に小道を作つて友人たちを招いた。

12 求^レ羊——求仲と羊仲のこと。二人は蔣詡の親友であつた。

13 賞^レ心——美しい風景をめぐる心。

14 妙^レ善——この上ない幸福。

(『文選』による)

問1 波線部(ア)「俱」・(イ)「寡」のここでの読み方として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ
 選べ。解答番号は 29 ・ 30。

- (ア)
- | | |
|----|-----|
| 29 | 「俱」 |
|----|-----|
- ⑤
④
③
②
①
- ともに
そぞろに
すでに
つぶさに
たまたま

- (イ)
- | | |
|----|-----|
| 30 | 「寡」 |
|----|-----|
- ⑤
④
③
②
①
- あづけて
がへんじて
すくなくして
つのりて
いつはりて

問2 傍線部A「由来事不同、不同非一事」について、(a)返り点の付け方と、(b)書き下し文との組合せとして最も適当な

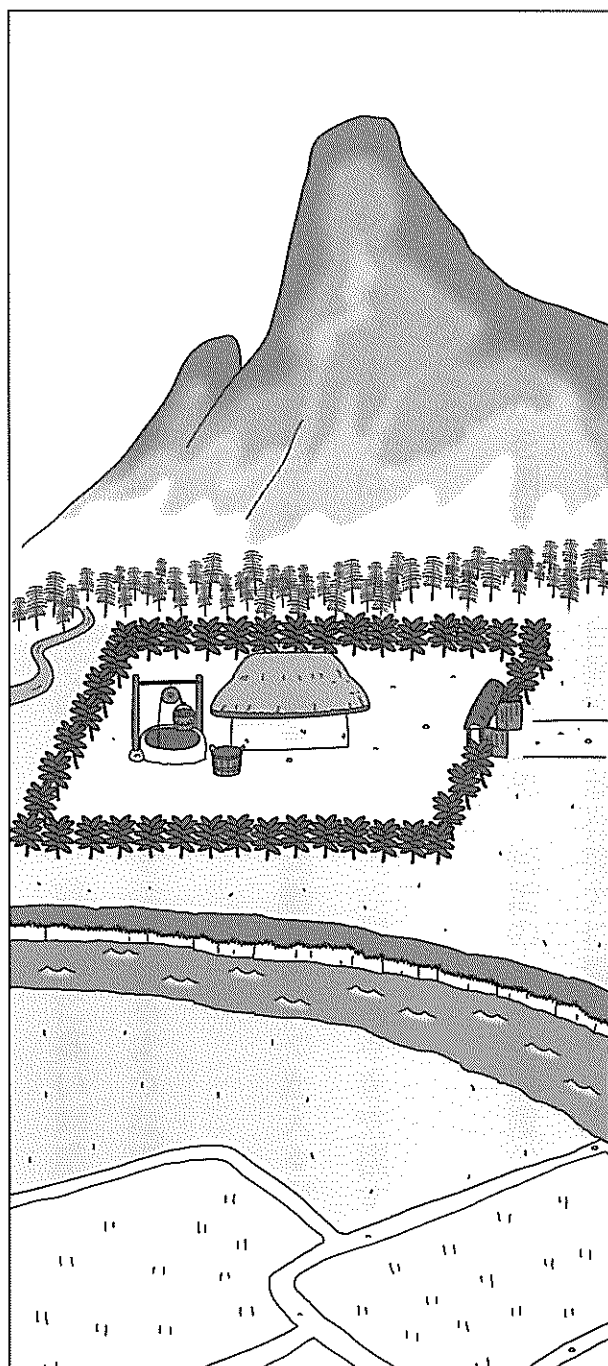
ものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 31。

- | | | | | |
|---|-----|-------------|-----|--------------------------|
| ① | (a) | 由来事不同、不同非一事 | (b) | 由来事は同じからず、一事を非とするを同じうせず |
| ② | (a) | 由来事不同、不同非一事 | (b) | 由来事は同じからず、同じからざるは一事に非ず |
| ③ | (a) | 由来事不同、不同非一事 | (b) | 由来事は同じうせず、一に非ざる事を同じうせず |
| ④ | (a) | 由来事不同、不同非一事 | (b) | 由来事は同じうせず、非を同じうせずんば事を一にす |
| ⑤ | (a) | 由来事不同、不同非一事 | (b) | 由来事は同じうせず、非とするは一事に同じからず |

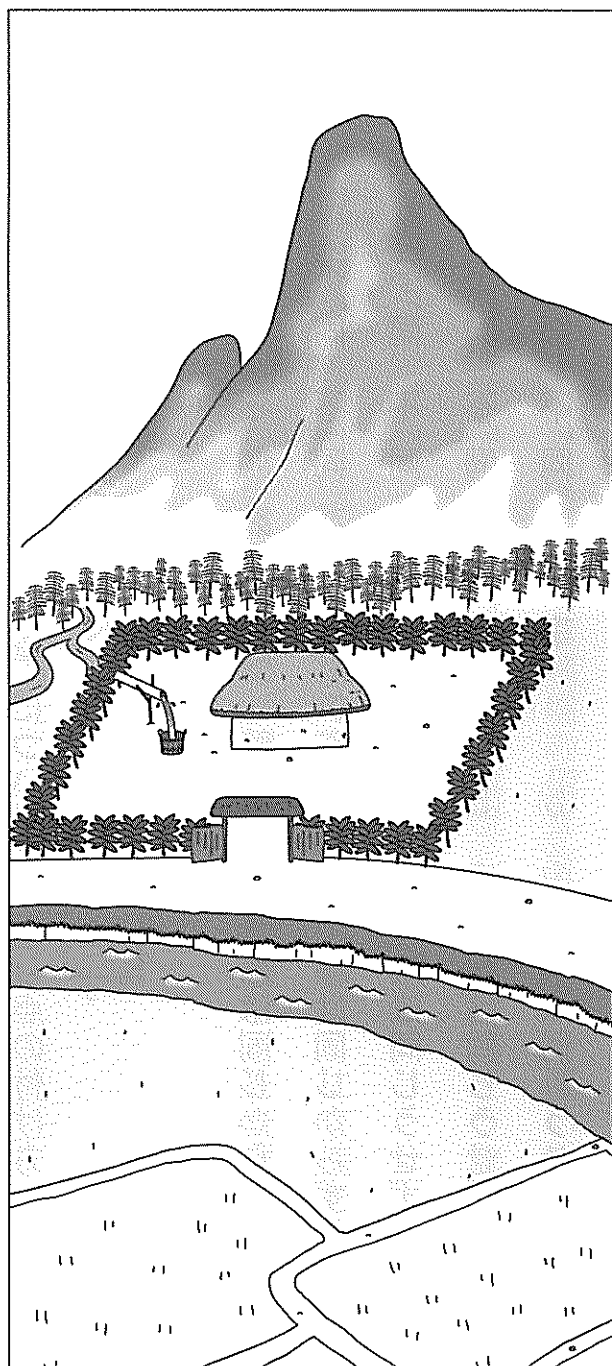
問3 傍線部B「ト」室倚北阜、啓扉面南江、激澗代汲井、挿槿当列塙」を模式的に示したとき、住居の設備と周

辺の景物の配置として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 解答番号は 32。

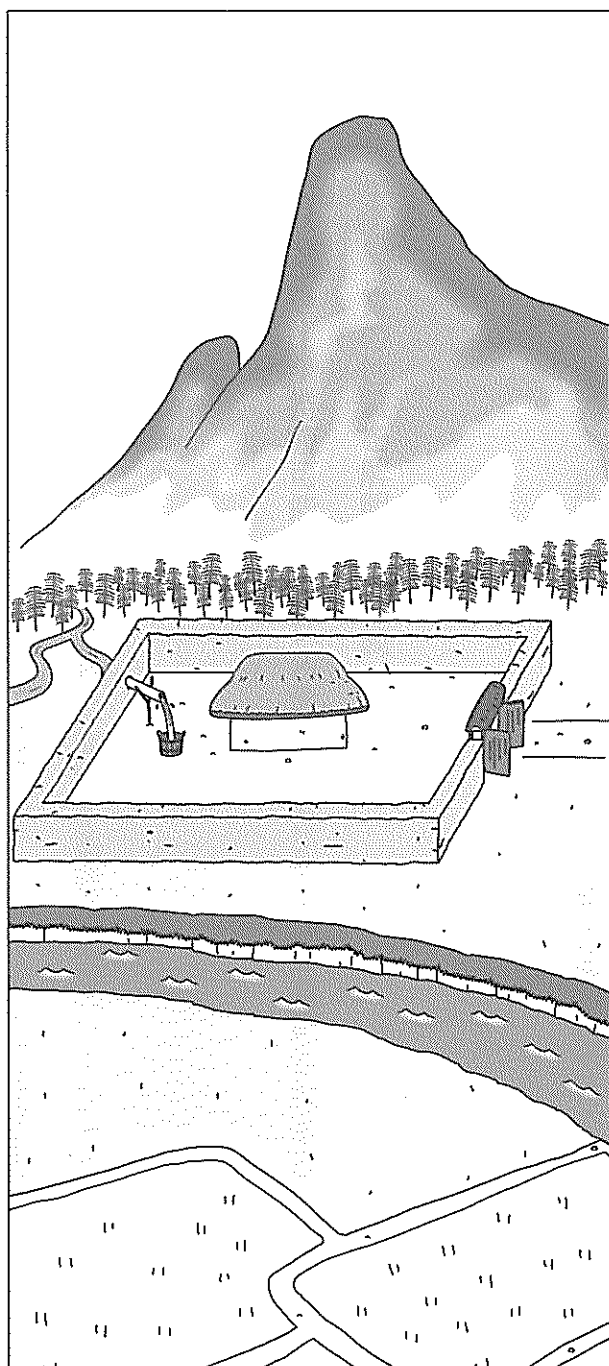
①



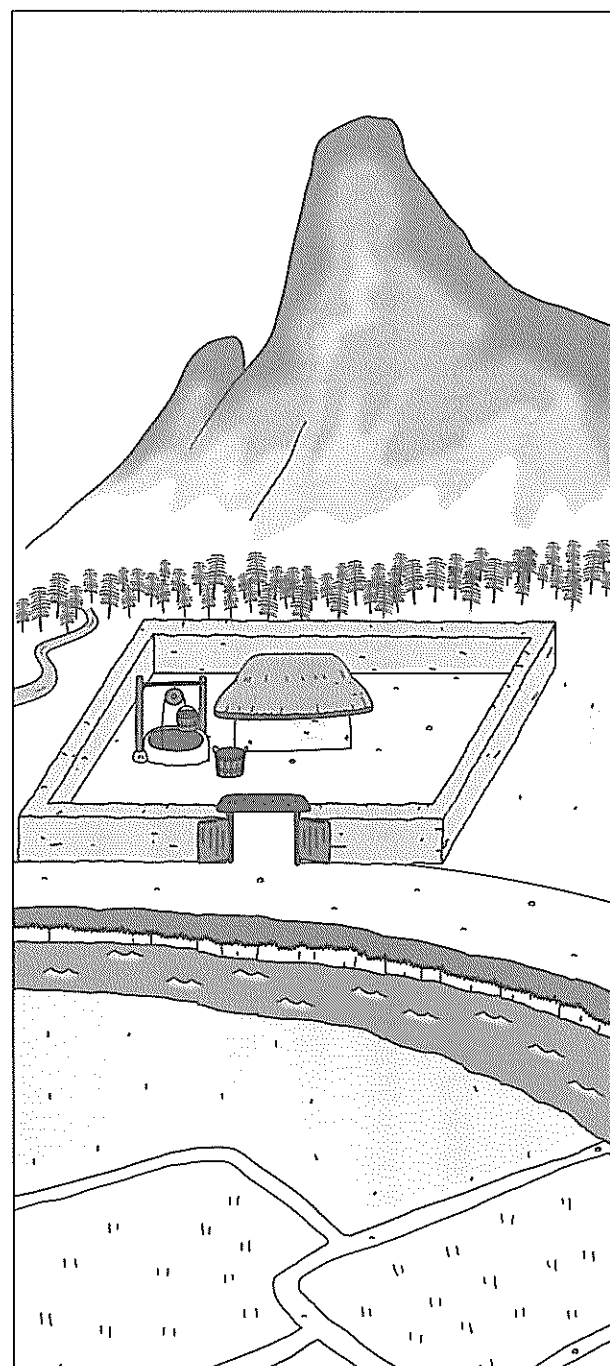
②



④



③



問
4

空欄

C

に入る文字として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

33

。

- ⑤ 月 ④ 門 ③ 虹 ② 空 ① 窓

問5 傍線部D「靡迤^{びい}趨^{おもむ}下田、迢遞^{てうてい}瞰^み高峰」の表現に関する説明として適当でないものを、次の①～⑤のうちから

一つ選べ。解答番号は 34。

- ① 「靡迤^{びい}」という音の響きの近い語の連続が、「下田に趨^{おもむ}く」という動作とつながることによって、山のふもとの田園風景がどこまでも続いていることが強調されている。
- ② 「靡迤^{びい}として」続いている田園風景と「迢遞^{てうてい}として」はるか遠くに見える山々が対句として構成されることによって、住居の周辺が俗世を離れた清らかな場所であることが表現されている。
- ③ 「迢遞^{てうてい}」という音の響きの近い語の連続が、「高峰を瞰^みる」という動作とつながることによって、山々がはるか遠くのすがすがしい存在であることが強調されている。
- ④ 山のふもとに広がる「下田」とはるか遠くの「高峰」とが対句として構成されることによって、この詩の風景が、垂直方向だけでなく水平方向にもびやかに表現されている。
- ⑤ 「趨く」と「瞰る」という二つの動詞が対句として構成されることによって、田畑を耕作する世俗のいとなみが、作者にとって高い山々をながめやるように遠いものとなったことが強調されている。

問6

傍線部E「賞心不_レ可_レ忘、妙善冀能同」とあるが、作者がこの詩の結びに込めた心情はどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

35。

- ① 美しい風景も、漢の蔣生と求仲・羊仲のように、親しい仲間と一緒にながめると、さまざまな見方を教わることができるので、立派な人格者である我が友人たちよ、どうか遠慮なく何でも言ってください。
- ② 美しい風景は、漢の蔣生と求仲・羊仲のように、親しい仲間と一緒にながめても、その評価は決して一致しないので、立派な人格者である我が友人たちよ、どうか私のことはそっとしておいてください。
- ③ 美しい風景は、漢の蔣生と求仲・羊仲のように、親しい仲間と一緒にながめてこそ、その苦心が報われるもので、立派な人格者である我が友人たちよ、どうか我が家のことを皆に伝えてください。
- ④ 美しい風景は、漢の蔣生と求仲・羊仲のように、親しい仲間と一緒にながめてこそ、その楽しさがしみじみと味わえるものなので、立派な人格者である我が友人たちよ、どうか我が家においでください。
- ⑤ 美しい風景も、漢の蔣生と求仲・羊仲のように、親しい仲間と一緒にながめないと、永遠に称賛されることはないので、立派な人格者である我が友人たちよ、どうか我が家を時々思い出してください。